



望遠郷

Souls of Tohoku

弘前市出身・仙台市、東北
大学大学院理学研究科教授



33 千葉 柁司

来年の2009年は、国際連合、ユネスコ、国際天文学連合によって「世界天文年」と定められており、世界中で天文に親んでもらうためのイベントが開催される特別な一年になる。というのは、現在の天文学の基礎を築いたイタリアの科学者ガリレオ・ガリレイ(1564—1642年)が、望遠鏡を初めて夜空に向け、宇宙の真理を開いた1609年からちょうど400年の節目の年になるからだそうだ。

ガリレオは、その前年にオランダで発明された望遠鏡にいち早く注目し、自作した口径わずか4釐の望遠鏡を月に初めて向けた。そうして、月の表面には山や谷、クレーターなどがたくさんあってでこぼこしていることを見つけ、大変驚いたそうである。この大発見に震えるような興奮を覚えただろう。さらに、夜空に雄大に流れるように見える天の川にも望遠鏡を向けたところ、実は多くの星の集まりであることを見つけた。この発見をきっかけに、私たちがいる太陽系は、銀河系と呼ばれる約1000億個の星の集まりの中にあることが、その後の天文学者によって明らかにされたのである。ガリレオはさらに、地球が太陽の周りを回っているというコペルニクス(1473—1543年)が唱えた地動説を強く主張し、それまで紀元前から2000年近くにわたって信じられてきた天動説(地球が中心で太陽が地球のまわりを回っている説)に真っ向から反対した。この時代には地動説は異端とされていたが、彼は宗教裁判にかけられて激しく糾弾された中でも、「それでも地球は回っている」とつぶやいたと言われている。命がけで宇宙

ガリレオと為信

の真理を探究した彼の成果は後世の天文学者に着実に受け継がれ、現在では私たちは銀河系の形成や宇宙の成り立ちの解明にも手が届こうとしている。

1600年ごろと言えば、南部氏につかえていた為信公(1550—1607年)が姓を大浦から津軽と改姓して独立し津軽を開いたころである。また、現在の地に弘前城の築城を開始したという。最終的に築城したのは1611年と記録にあるようだ。その後、廃藩置県後の明治時代に市民公園として開放され、多くの桜の木が植えられたりして、私たちにとってとてもかけがえのない公園となった。津軽為信が築いた基礎は後世に着実に受け継がれ、豊かな自然と文化に恵まれた今の津軽につながっているのだと考える。

400年の歳月を経てはぐくまれたこの私たちの財産をさらに発展させ、後世に残していきたいものである。



挿絵・佐藤 元昭

右折すると羽州街道に出る。入ってすぐ右手の古い明治天皇の行在所のある家が、彼女らの宿泊した笹嶋家である。そ

